

日 時	令和4年7月14日(木)
視 察 先 1	愛知県豊田市足助「おいでん・さんそんセンター」
研修テーマ(視察項目)	移住・定住対策の取組状況と課題について
<p>① 取組の経緯・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 60%が山村地域でその住民は市の5%程度 TOYOTAの撤退後2000人減少 9年前、市の職員を退職した1人の方が足助支所の2階へ「おいでん・さんそんセンター」を任された。今は予算4000万・スタッフ9人体制。 ・ 移住定住委員(実働部隊)空き家を探すのは、各地区の5.6人の委員説明しやすいように、事例を載せた冊子を作りそれを参考に空き家探し ・ 地域面談 自治会3人と、委員と移住したい希望者で。 ・ 2021年までに258世帯、600人弱(30代から40代が6割)が移住 ・ 現在369世帯が待機している ・ 「空き家に明かりを」プロジェクトはポスター・ステッカー・YouTube番組などで周知している ・ いなかと街の交流コーディネート 9年間 374件 例：企業や労働組合などのCSR, 農業体験・研修等 <p>成功例</p> <p>【とよた里山ジビエカレーの発売 (3万食)】</p> <p>カレー： 株ワイズ(COCO一番のフランチャイズ社)</p> <p>デザイン： 足助高校</p> <p>ジビエ肉販路： 山恵共同開発</p> <p>【半農半×】社員として雇用し、地元の農家が忙しい時期は農業をする 富士産機の工場 + kinoファームで農作業(今は1人雇用)</p> <p>② 今後の課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希望の高い理想的な古民家はそうそう出てこない、空き屋だけに依存するのは無理 ・ 移住者のうち定住せず引っ越していく方もいる 55%そのまま定住 45%転居 ・ 仏壇の置き場や家の片づけの問題は常にある、空き家でも提供に結び付けるまでには説得が必要 ・ 耕作放棄地への今後の対策は必要 例：2.4ヘクタール 米(ミネアサヒ)1俵3万円 ブランド化した ・ プラットホーム会議(活動団体 研究者 市民 スタッフ)は少しトーンダウン そこで出向いていく形の会議に変えて開催してみることにしている(7月20日) 	

③ 本市に反映できると思われる点

おいでん・さんそんセンターとは・・・

いなかとまちの人・地域・団体・企業が「つながる」プラットフォームです。

取組 1、都市と山村の交流コーディネート

(田舎とまちがつながる様々な交流をマッチングし、持続化をサポート)

2、いなかの暮らし総合窓口

(住まい・なりわいなど田舎暮らしの総合窓口として移住者をサポート)

3、「支え合い社会」の研究・実践

(センターがめざす支え合い社会の実現に向けた研究・実践をサポート)

【本市に反映されたいと願うこと】

★プラットフォームであるおいでん・さんそんセンターのようなセンター機能

★アイデアとやる気をとそれを実現する行動力を持ち合わせたリーダー(センター長)と、コーディネート力のあるスタッフ

★十分な予算

★山村条例

★市民、移住希望者、家主、山村の住人など対象者向けに分けられた冊子 動画 ポスター 等 (センスの良い、わかりやすいもの)

例：移住者受け入れスタートガイド (山村の住人向け)

：空き家情報バンク補助・支援制度のパフレット (移住者向け)

：家主さんのための空き家活用ガイドブック (家主用)

：おいでん・さんそん SHOW (月の会報誌) (市民向け)

：

④ その他 (感想、意見。)

藤枝市の山間部の人口減少に対して、どんな未来像を描くのか、その未来をどうやって目指して行くのかのビジョンが必要であり、それは山間部地域の住人の参画と街中の住人である市民の皆さんが応援したくなるような魅力的なものであったらと思います。

足助支所のセンターのスタッフの中に、ガイドブックのデザインを得意とする方がいて、その人は現場を知っているので、あらゆる冊子がわかりやすく素晴らしい内容で感動。そんな些細なことでも、とても大きい影響が考えられます。

こういった事業は、マンパワーが必要であり、持続可能にするためにもある程度の予算がなければ、大きな成果が上がらないのではと感じました。

現状のままでは、山間部地域活性化は難しいのでは??と考えられました。難しい事ではなく、やるかやらないかの選択だと思いました。

日 時	令和4年7月15日(金)・16日(土)
視 察 先 2	徳島県神山町産業観光課、「(一社)神山つなぐ公社」、他
研修テーマ(視察項目)	移住定住対策の取組状況と課題について
<p>① 取組の経緯・内容など 神山町 人口4647人 大阪まで2時間 面積173平方km 森林率86% もし何もしないと・・・ 2040年の人口2400名程度 神山分校(高校)の廃校 など H20～R3 193世帯 330人が移住 H20年【イン神山】開設 空き家情報を掲載したら問い合わせが増加</p> <p>2016年設立 一般社団法人神山つなぐ公社はこれからの神山町の姿をともに考え、協働し、つくりだす。役場のパートナー。 それまでは民間「グリーンバレー」がやっていたが、役場が重い腰をあげた。 スタッフ10人は、役場の出向職員と必要な能力と熱意を持つ人材で構成される。</p> <p>出向(1年目) 39歳馬場達郎さんの【まちを将来世代につなぐプロジェクト】説明会 役場とつなぐ公社が推進主体となる。各プロジェクトの実行にあたるのは両社に限らない。本戦略にはNPO非人グリーンバレー・フードハブ・プロジェクト、地元の高校など 目指す方向性を共有しつつ、それぞれの専門領域や特性を活かした展開を図る。 推進主体の役場とつながる公社は、全体の状況を把握し、各施策の実行体制や資源配分を検討・判断する役を担う。</p> <p>基本目標 7つ 【可能性が感じられるまち】の構成要素 ・人がいる ・いい住居がある ・良い学校と教育がある・多様な働き方と仕事がある ・富や資源が流出していない ・安心な暮らしがある ・関係が豊かで開かれている この7つの状況を日々発信していくことで、さらに新しい出会いに繋がる好循環がうまれる。循環の慣性が、長期にわたる継続を助ける。</p> <p>・会議のやり方を変えた 20分レッスン 15分3人組で話し合う 実行する熱意と、力のある人が明確に存在する事 40代以下30人 将来を自分のこととして考えられる人 役場50% 民間50% やらされ仕事でない事が大事 立場にとらわれなくて、どのカテゴリーをやりたいのか考え書き込む</p> <p>・集合住宅 8棟 20世帯 家賃4500円 森林業を活かし街の大工さん等町の人が建設 18歳以下の子供がいる 50歳未満の夫婦限定</p> <p>・地方創生は、民間が主導することが成功のポイント</p> <p>【自社農園 つなぐ農園】 7年目 今春からNPO法人 フードハブ樋口さんの説明 農村のある暮らし： 兼業農家としてサポート</p>	

専業農家：2名（夫婦）が独立 葉野菜 人参 ジャガイモ
5年間は圃場の整備
今秋から、東京の700食の社員食堂へ卸す
給食（小中学校220食）の調理オペレーションがはじまった

② 今後の課題など

神山町は世代の偏り、人数の多い職場の少なさ、人生経験の異なる人々の転入などの状況の中、お互いの関心や交流の場が少ない事が問題。
何らかの媒体が必要であることが課題。

役場の職員は担当業務に専念せざるを得ないことが多く、広く街づくりの視点を持つ機会が少ない。町外出身者の割合も増し、職員が十分に知り得ていないことが多い。

③ 本市に反映できると思われる点

若い世代の方が主体となって推進していることが、活気と未来へのわくわく感を感じた、本市も若い世代の組織を取り組んでいくことはできると思いました。
会議の在り方も重要、まねたらよいと思いました。

フードハブには、静岡の方が2名いるとお聞きした、この方を本市に取り込めたらアイデアがたくさんあってよいただろうと感じた。理想論ですが・・・

農業支援も38歳の白桃さん（お父さんはお米農家）が指導している。このように若い方が移住者の農業支援していることも若い移住者を取り込んでいけるのだと思う。

若い世代の組織づくりに取り組んで行く事ができたら、それを町内の先輩世代の方がバスで見学をする。関係性を作るバス見学は無料で神山はこれまで60回 700人が参加。無料の代わりに、最後にマイクで感想を言う。

かまや（地産地消）のレストラン

作付けの野菜の種類と量は月1回会議。

ランチ1800円

お値段高め、身体によい食事は必ず人気となると思いました。美味しかった！！

市が建てたお店に、地元要望があったお店を募集（パン屋さん）移住してもらう

④ その他（感想、意見）

豊田市と違う点は、40歳以下のスタッフが活躍していること。

未来を築いていく世代が先頭に立って考えて行動をしている、このことから街がおしゃれで、田舎なのに都会にあるような飲食店が街の雰囲気を作っていた。
移住してくる方も、新しいことに挑戦しやすい環境があるので、田舎に暮らす感覚というより、街が変わっていくことに一役かっているように感じるであろうと思いました。若い世代に移住してもらいたい街づくりを目指すならば、神山町は参考点が多いと思いました。